

千葉大学医学部の伝統（千葉医学の伝統）言語化プロジェクト

— 135 周年 記念 事業 —

田邊 政裕

● 経 緯

千葉大学医学部85年史が発刊されて50年になる。この書には多くの先達が艱難辛苦の末に現在の千葉大学医学部を築いてきた歴史が克明に記載されている。この中で、鈴木五郎先生が担当された「大学時代Ⅱ」の「おわりに」の最後の段落に「こうして時移り人は変わり、地形環境にまで変化をみるが、大学病院が医育機関として草創以来80有余年の長きにわたり、間断することなくその使命を果たしてきた一筋には、何等の変動もない所に千葉医学の伝統が流れる」という一節がある。「千葉医学の伝統」とは？百人百様の意見があるかもしれない。千葉大学医学部が今後これまでの歴史以上に存続し、さらに発展していくためには、我々の後輩は先達に勝るとも劣らぬ努力が求められる。その時、彼らの支えになるのがアイデンティティーとしての「千葉医学の伝統」ではないだろうか。「千葉医学の伝統」を具体的な言葉で表現し、卒業生、在校生、さらに、これから千葉大学医学部を目指す後輩に対して、伝統に裏付けられたアイデンティティーとして掲げるとは、彼らのみならず患者、市民などにとっても強いインパクトになる。135年の千葉大学医学部の歴史を振り返り、次の100年を構想して千葉大学医学部のアイデンティティーを「千葉医学の伝統」として言語化し、それを先輩や我々が共に生きた証として後輩に伝えるプロジェクトである。

● 事業内容

事業内容は以下の如くである。目的：「千葉医学の伝統」を言語化し、周知する。方法：学外者、卒業生、在校生にこのプロジェクトの目的を周知し、「千葉医学の伝統」と考えられる文章、熟語、キーワードを募る。i) デルファイ法に準じて有識者（退官された全教授、現役全教授、本学出身他大学前・元・現教授、なのはな同窓会全常任理事、地区なのはな会支部長、本学出身現役病院長、県・市医師会理事プラス学内委員からの推薦者：150名程度）から個別に意見を求める（趣旨説明・回答依頼文、回答用紙又はFAX用紙又はeメール、返信用封筒）、ii) なのはな同窓会新聞、在校生のメーリング・リストを通して広く意見を求める、iii) 集まった意見を集計し、頻度別に分類し、頻度の高い

意見（全体の1/2）を候補として抽出し、再度有識者にそれらを周知して、選択してもらう、iv) iiiを繰り返し、最終的に残った意見（1～3意見）を「千葉医学の伝統」を表す意見として、「千葉医学の伝統」言語化プロジェクト委員会（学内：鈴木信夫、白澤浩、瀧口正樹、清水栄司、田邊政裕、学外：伊藤晴夫、大井利夫、寺澤捷年、済陽高穂）（敬称略）に提示する。委員会は回答をまとめ、「千葉医学の伝統」を表す言葉を決定する。この企画は135周年記念事業運営委員会（9/28/2009）でその概要が承認され、なのはな同窓会臨時常任理事会（10/28/2009）での実施要項の承認を経て正式にスタートした。

● 中間まとめ

千葉大学医学部の卒業生など関係する多くの皆さんから、数々の貴重なご意見をいただいた（文末の一覧表に全てを記載）。その後、3回の意見集約を経て、「千葉医学の伝統」は下記の「獅胆鷹目」、「人間の尊厳」、「まず始めること」に集約された。これらの言葉をもとに「次の100年を構想する新たな千葉医学の伝統」を verbal & visual identity として言語化プロジェクト委員会が下記のようにまとめた。

1. 「獅胆鷹目」について

獅胆鷹目行以女手（したんようもくおこなうにじょしゅをもつてす）（獅子のように細心にして大胆且つ動じない胆力、鷹のように諸事を見通し、判断・解決できる眼力、女手のように優しく緻密な手技）は三輪徳寛先生以来の千葉大学の外科の伝統として受け継がれており、千葉医学の伝統として最も相応しい言葉である。しかし、以下のような問題点が指摘され、結論を出すには、更に検討が必要と思われた。1) 漢文のため一瞥しただけでは、現在の学生、教員にとって意味を理解することが難しい、2) 行以女手に女性に対する固定観念が感じられ、行以仁愛、春風秋霜などの代案が提案された、3 回目の意見集約で獅胆鷹目 行以女手18票に対して獅胆鷹目 行以仁愛13票、獅胆鷹目 春風秋霜8票、合計21票となり修正意見が上回った、3) 一方、獅胆鷹目をそのまま言語として残すよりも、これらの要素を全て含む医学部の新たなロゴマーク (visual identity) と

して再生させることが提案された。



2. 「人間の尊厳」について

大学病院の基本理念として既に認められているが、洗練されていて、わかりやすく次世代に伝える平易な言葉として優れている。医学部、医学研究院、医学部附属病院の基本理念として、職員、学生と共に患者へも強くアピールするメッセージ性がある。HARMONY OF HUMANITY, ADVANCED MEDICINE AND EDUCATION は簡潔に HARMONY OF HUMANITY AND ADVANCED MEDICINE とし、「人間の尊厳と先進医療の調和をめざし、次世代に伝える」はそのまま残すことが提案された。附属病院の場合、HPのトップ頁に以下のように表示することが提案された。

千葉大学医学部附属病院

人間の尊厳と先進医療の調和をめざし、次世代に伝える
Harmony of Humanity and Advanced Medicine

3. 「まず始めること」について

中山恒明先生に由来する千葉大学医学部オリジナルの言葉であり、医療、研究、教育のいずれに対しても、それぞれに取り組む姿勢として普遍性がある。最後まで諦めない、イノベーションをやり遂げる意味が込められている。千葉大学医学部の伝統として、そこで学習、診療、研究、指導に携わるすべての人々に具有してほしい姿勢である。米国のシカゴにある国際外科ミュージアムに展示されている中山恒明先生の言葉として Beginning is half the success, not giving up on the way is complete success (まず始めること、始めたら止

めないこと) がある。この英語を begin. continue (. は 2 つの言葉を結ぶ連結記号) と簡潔に表現し、千葉大学医学部 (大学院医学研究院) の学生、医師達の行動指針となる verbal identity として HP 等で以下のように表示することが提案された。

千葉大学大学院医学研究院・医学部

begin. continue*

*千葉大学も「つねに、より高きものを目指して」というメッセージをHPで謳っている。begin. continue は「つねに、より高きものを目指して」の行動規範としても整合性があるように思われる。

4. 医学部に対する提案 — 千葉医学 (Chiba Medicine) について—

現在の千葉大学医学部は1949年に公布された国立学校設置法により、千葉大学の一学部として位置付けられている。しかし、本学には1874年の共立病院の設立に始まり、全国に7校のみ設置された高等 (中) 学校の中で第一高等学校医学部となり (1887年)、千葉医科大学を経て (1923年)、千葉大学医学部となった (1949年) 135年の歴史がある。135年の時間軸まで含めた総体として本学を考えると、60年の歴史のみの千葉大学医学部ではそれを十分に表現することはできず、新しい呼称 (概念) が必要になる。

135年間に本学が達成した成果は、育成した数多くの医療者であり、質の高い研究であり、地域医療への貢献である。それは、医育・研究機関としての医学部、大学院、附属病院を始めとする関連の地域中核病院、卒業生からなるものとはな同窓会などの成果として継承されている。この135年の伝統とその成果を包括する概念として、「千葉大学医学部八十五年史」にある鈴木五郎先生の千葉医学 (Chiba Medicine) を挙げることができる。千葉医学 (Chiba Medicine) により、60年の歴史の千葉大学医学部に留まらない、本学のアイデンティティを再構築することができるのではないだろうか。

このような医学部、医学研究院、附属病院とその関連病院、同窓会などの組織を包括する最上位の概念として ○○Medicine と総称する言い方が、米国の名門大学では使われている。Penn Medicine, Stanford Medicine, Harvard Medicine などである。創立135年を機に本学も、その伝統と成果を構成員全員が共有する概念として千葉医学

(Chiba Medicine)を導入し、「獅胆鷹目」、「人間の尊厳」、「まず始めること」を本学のアイデンティティーとして活用することを提案する。獅胆

鷹目のロゴマークにも Chiba Medicine を使用した。
(たなべ まさひろ)

初めに寄せられた言葉

(説明は一部省略等、編集してあります。御了承下さい。)

○獅胆鷹目行以女手

この言葉は、外科医のみならず、すべての医師が獅胆鷹目で診断をし、女手でやさしく患者に接するというあらゆる医師の在り方を示していると思っている。千葉大学の特に患者に接する精神を説いたものと拝読したい。

○獅胆鷹目行以女手 遺訓仁愛貫之為民

「獅胆鷹目 行以女手」に教育学部の加藤敏教授にお願いして「遺訓仁愛 貫之為民」を加えてもらいました。これによって全文は以下のような意味となります。「医学、医療を行うにあたって、獅子のような全力、大胆、冷徹さ、鷹の目のような諸事を見通し、理解する知力、女性の手のように繊細で柔軟な手技を身に付け、患者を思いやる心を忘れない、それらを貫徹して人々のために尽くせ。」

○人間としての医師が人間としての患者に接する心がいたわりに満ちていなければならない。

医学と呼ばれる学問より前に病人という事実があって、医療はもとより医学にとってもその真の対象はその病んでいる人間である。

我々医師は病人にいかに接するかです。千葉大学は学術研究者を養成するよりは、良き臨床医を育成することに目的を置くべきと考えます。社会は、また患者は研究よりも良き臨床医をもとめているのですから。

○医師と患者の接触面、臨床医学こそ医学のアルファであり、オメガである

医療を医師と患者という2つの人格の間に成立する技術的・倫理的な営みと見る

川喜多愛郎・佐々木力著「医学史と数学史の対話」より。これらの言葉は、川喜多先生が千葉医科大学に赴任後、伝統ある千葉医学に触れられて生まれたものである。医療の荒廃が叫ばれている現時点においても、医学・医療の進むべき正しい方向性を示していると考ええる。

○まず始めること、始めたら止めないこと

(Beginning is half the success, not giving up on the way is complete success.)

旧第2外科の中山恒明教授の言葉の英訳です。「始めることが半分の達成につながり、諦めないことが真の達成につながる」というような意味かと思います。代々受け継がれてきた言葉であり、旧第2外科出身の多くの外科医のモットーになっています。この英文は、シカゴにある国際外科ミュージアムに中山恒明教授のモットーとして展示されている。

○運・鈍・根(うん、どん、こん)

旧第2外科の中山恒明教授の言葉と言われています。基礎、臨床医学を通じてオリジナル(ノイエス)で卓越した仕事を成すために必要な要素を、運(チャンス、思いつき、ひらめき)、鈍(他人の眼には一見愚鈍にさえ映る研究姿勢で、すでに解明されていることであっても、まず自分の手で基礎からやり直してみる)、根(最後までそれをやり遂げる)の3文字で言い表しています。

○世界をリードする千葉医学

○基礎と臨床の融和

○生老病死は人生の常態なり。深く想うべし(あるいは深く学べ)。そこに友は見出され、学(あるいは医)は起こり、愛(あるいは慈)は生まれる。

1. 深い(真実の)人間観から深い人間行動のすべてが生まれる。
2. 学府の構造を考えると、友は大きな価値である。
3. 学府としての目標は医学である。
4. 医学を支えるのは自分と同じように人を思う大慈。

○医学は厳しく、医療は暖かく

モットーとして丸40年臨床の現場と学会活動を行ってきました。これは千葉医学の伝統にも合致するものと考えます。

○第一、大局観確保の力量を身につけよ。

第二、自身の生活する地域密着（千葉、房総）によって生々発展せよ。

○人を育てることは、学を究めることに優る

千葉医学の伝統は、明治の初めから、良医を育てることにあったといえるのではないのでしょうか。高い医療技術や医学への造詣の深さは、医師として求めなければならない目標ですが、それは、高潔な心や弱者への思いやり、不屈の精神など、その人の高い人格の上に立って初めて実現し、また、社会に貢献できるものです。

○継承と創造

千葉医学は、長い間、先達のやってきたことを継承して、その受け継いだものをより創造し、新しいものを作り上げる。これが千葉医学の輝かしい伝統だと考えます。

○伝統の翼に乗り、実践医学の泰斗とならんことを追求せよ

○伝統の継承と改革の相克の中から大きな花開く千葉医学のエネルギー

○自由闊達な学生生活

○思い遣る心を磨き、医に全霊を捧ぐ

思い遣るとは、自然科学を極め人間愛を育むことである。それは、病む人に向け全身全霊を尽くすためである。

○経験医学の中には真理がある

伊東弥恵治の論文の中に「東洋医学を排するものは経験医学だからよくないと言う。私は逆に、経験医学であるから其の中には真理があるとだんずるものである」の言葉がある。理論を排するものではないが、医学においては、理論のみでなく経験の大切なこと、そして千葉医学は、それを掲げてよいように思う。

○人命を預る医師は医するに足る手腕と人格を備えていなければならぬ

長尾精一の言葉

○仁愛の我等が手にて世の禍をすくわん

千葉医学専門学校校歌の一節

○努力を積み重ねて最良の研究と最善の医療を目指して

○常に疑問を持ち、より優れた研究とより良き医療を目指して

○真面目に患者と医学に向き合い、高きを目指す

○市井に立ち至上の医学を志す

○博学於文 約之以礼

滝沢延次郎の好まれたことば、論語より。学理をよく学び、そのすべてを患者に向けなさいということです。

○人には春風をもって接し、医学には秋霜をもって対す

「千葉医学の伝統」の印象は、業績を挙げている割に“地味”である。先輩から、よく千葉大は“いぶし銀”といわれていたと聞いています。これからの千葉大生には我々を乗り越えて先へ進んでほしいと願っています。「社会力を強め学力を高める」意味を表す言葉です。

○自由他敬

医師として、他者すなわち患者、その家族、師、同僚、後輩、社会、世界に対して抱く敬意は、診療、教育、研究に対する情熱の源泉としても、また行動規範としても根幹をなすものであろう。

○人間の尊厳と先進医療の調和をめざし、次世代に伝える

HARMONY OF HUMANITY, ADVANCED MEDICINE AND EDUCATION（千葉大学医学部附属病院の使命）

当時、副病院長であった教授が harmony という言葉をポロリと口にした。その一言で HARMONY OF HUMANITY, ADVANCED MEDICINE AND EDUCATION におもい至ったのである。つまり英語による「使命 mission」が先にできてしまったのである。大学病院である以上、先進医療 ADVANCED MEDICINE の開発と実践ははずせないし、教育 EDUCATION もはずせない。その頃、本邦でも告知、説明責任、患者の自主決定、人権の尊重などに関心が向けられてきて、これらは humanity の概念にふくめ、しかも先進医療 ADVANCED MEDICINE、医学教育 EDUCATION をこえた存在として、キーワードのはじめに位置づけることにした。